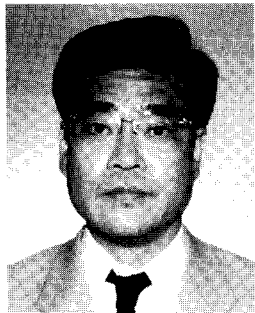


論壇



●美唄歯科医師会副会長
小森 英世

構造不況業種脱却の切り札は？

歯科業界は、一定のパイどころか縮小するパイを巡って、ますます増加する歯科医師が分けあうというまさに構造的な不況の要因を抱えている。このことからの脱却に妙案はあるのだろうか。

従来から提案されている、予防啓蒙活動により受診率を高める、最大限の工夫・努力をして保険点数をあげる、歯科医師の需給のバランスを図る、などは重要であるが久しく語られていることなので、別の観点から検討してみたい。

この不利な状況を変えるには、どんなアイデアが必要なのだろうか。切り札とは呼べず、現実には大きな壁も立ちはだかっていると思うが、私なりに考えてみた。勿論、収入アップを図れるにこしたことはないし、(詳細はハッキリしないが)混合診療にも少しの希望はあるのかもしれないが、経費の圧縮は手固く、国に頼らずとも達成可能な点が重要だ。人件費の経費に占める割合の大きいことは周知のことだが、衛生士であれ、一般助手、事務職であれ、常勤よりもパートの方が、経費を削減する上ではるかに効率的である。能力の有無は雇用形態と関係するとは思えない。道歯企画が人材派遣にまで関与できるなら、経験豊富なパート従業員を必要な時派遣してもらえれば、過剰な人間を抱え込む必要がなく、診療所が弾力的な構造になるだろう。3人の常勤従業員は3人の自前のパートと4人目の派遣社員で賄えるだろう。プールされた歯科医師を派遣することにより、常勤の代診を雇わずとも、一生、一年中、一個所に拘束されずとも多少の自由という執行猶予は可能かもしれない。待望の1ヵ月のバカンスも可能になるかもしれない。人材派遣に道を開くことはそんな可能性を秘めている。

実際は、人件費に限らずあらゆる支出の部門に関与することにより、不要と思われる支出を削減することができる筈だ。税務、貴金属取り扱い、技工部門。それこそ聖域はない。郡歯の事務ですら、高度にIT化された事務員の派遣は、様々に立ちはだかる諸問題を一気に解決し、大きな前進を郡歯事務と各診療所に約束するだろう。ほんの些細なことで数ヵ月も立ち往生するのは残念なことである。そうした時、道歯のインターネット放送は各診療所を有機的につなぎ、診療をダイナミックなものに変えるだろう。新規開業者は、道歯企画に加入するか否かが、成功を左右することにならないとも限らない。

次は、歯科医師海外派遣に道を拓くことである。製造業は、中国に上手に進出できるか否かが生き残りの鍵になっているが、上海周辺には、名前も聞いたことのない百~数十万単位の人口を抱える都市が沢山ある。この人達の口腔内環境はどうなっているのだろうか。既に予防知識が行き渡り、豊かさがムシ歯を産み出さないシステムを作りあげているのだろうか。決してご都合主義ではなく、シルバーボランティアばかりでなく、若い人にも活躍の余地はないのだろうか。

医療費の負担を患者や医療機関に皺寄せする解決などは、ますますデフレへと導くことになる。所謂老人の定義をいじくり国民に不安をかきたてるより、肥大化した公共部門のスリム化こそが国民が求めているものである。

医療の発達と予防の普及により、最終的には、あらゆる方策が限界のあるものと判断されるが故に、解決策は国家的見地に立つ、大胆で抜本的なものでなければならないだろう。